

第5回丹波市地域資源活用懇話会 議事録

1. 日 時 令和4年11月8日（火） 13時00分～14時30分

2. 場 所 春日住民センター大会議室

3. 出席者

○懇親会委員（10）

1号委員 関 美絵子

2号委員 藤井 和枝 竹内 真子

3号委員 荻野 祐一

4号委員 田辺 真人 松原 慶明 大木 玲子

5号委員 濱田 亮光 植地 惇

6号委員 宇瀧 広子

○事務局（6名）

4. 協議事項

（1）丹波市観光・商工業振興ユニティプラン（素案）

（2）その他

5. 開会

事務局：定刻になりましたので、ただ今から第5回丹波市地域資源活用懇話会を始めさせていただきます。会長の挨拶をお願いします。

6. 会長あいさつ

～田辺会長挨拶～

7. 協議事項

田辺会長：それでは、次第に沿って協議を行ないます。

（1）丹波市観光・商工業振興ユニティプラン（素案）前回からの修正箇所を事務局から説明をお願いします。

～事務局から資料の説明

田辺会長：前回のご意見から修正を頂きましたが、ご質問、ご意見いかがでしょうか。

委 員：25 頁からの前回計画の観光・商工業振興施策の評価と課題の方向性の「変更」の表現ですが、前向きな変更なのか廃止の方向なのか分かりやすい表現で分けられるのではないかと。それから 54 頁の魅力ある宿泊施設の推進は、「整備」の推進あるいは「充実」の推進だと思うが、宿泊施設の推進という言葉遣いに違和感がある。

事務局：「変更」が前向きなのか後ろ向きなのか分かるよう適切な言葉を考えます。

田辺会長：「変更」という言葉を「拡充」や「縮減や削減」などに差し替えてはいかがでしょうか。54 頁はどうでしょうか。

事務局：委員よりご意見いただいたように、整備の推進あるいは整備の促進に文言

を変更するのか内部で検討したいと思います。

田辺会長：整備の拡充はどうでしょうか。

事務局：整備も含めた拡充という意味ですか。

田辺会長：拡充の意味は増やして充実させるという意味です。どのように表現するかは内部にて検討いただくのはどうでしょうか。

事務局：内部にて検討します。

委員：全国高等学校女子硬式野球選手権大会を盛り上げて欲しいとご意見させていただいたところ、盛り込んで頂いて、ありがとうございます。これまでの懇話会にてお話していた三崎省三について調べました。丹波市春日町黒井の出身、阪神電鉄の専務(実質的に社長)に就任し、ヤンキーススタジアムに負けられないようなスタジアムをと作ったのが甲子園球場。丹波に女子高校野球があり、その丹波から甲子園球場を作った男が出た。女子高校野球の決勝戦が甲子園で行われている。ひとつの物語が出来ると思っているのでは是非アピールして欲しい。

田辺会長：甲子園球場の産みの親が丹波市出身、そこで全国高等学校女子硬式野球選手権大会の決勝が行われている。募金活動をして日本高等学校野球連盟にも呼びかけるのも良いと思います。出身地に顕彰碑を建てれば、その事がニュースになり、丹波市にとって良い情報発信になるはずです。

委員：51 頁で「ゆるキャラ祭り等へ参加することにより」よりも「ゆるキャラ祭りへ参加すること等により」のように「等」の場所を動かして頂いた方が意味が通じやすいと思う。それと全国高等学校女子硬式野球選手権大会の話で元メジャーリーガーのイチローさんや松坂大輔さんが女子高校野球女子選抜と一緒に試合をしてメディアにも取り上げられていた。これが丹波市に来れば盛り上がると思う。それと基本目標 2. 観光インフラの整備でインバウンドの受入の推進。方向性が変更になるだけなら言葉尻をとらえてという事になるが、先ほど委員から「変更」をポジティブとネガティブの二つに分けたらどうかという話があり、そうするとここはネガティブであると思う。計画が 5 年間になっているのは承知しているがコロナの影響があるとはいえ今後、増えていく事がほぼはっきりしている。丹波市の観光行政はインバウンドお手上げで対応しきれないという書きぶりに感じる。なので、個人的には推進に努める方向で持っていけないかと思う。内容については、懇話会での意見を集約し再考して頂ければと思う。

田辺会長：文章ではマイナーになる背景だと思うが、表で見ると拡充の方向だと思います。文章の「本市では～」を削除してはどうでしょう。今後、長い目で見えていなければならぬが表に関しては縮小しようという意味は出ていないはずですので、「コロナ終了後の増加が見込まれるので」と入れておい

た方が良いのではないのでしょうか。それとレイアウトの事ですが、3頁、5頁の表は平成、令和の元号は1度の記載で良いので数字を大きくして欲しいです。表の数字を本文よりも小さくするのは恰好が良いが見えづらく感じます。ユニバーサルデザインに配慮した形で作成を進めていただきたいと思います。25頁の①は「前回」で良いのですか。

委員：「前期」はすべて「前回」に置き換えて統一します。

田辺会長：31頁の写真、まとめも含めて、賑わいを増やす為なので人物が映り込んだ盛況さの感じられる物に修正するのはどうでしょうか。概要版の写真も検討いただきたいと思います。他になれば今日の主な内容であるユニティプラン(素案)の商工業振興についての説明をお願いします。

～事務局から資料の説明～

田辺会長：ただ今の説明にご質問、ご意見いかがでしょうか。

委員：商工業の方は別政策と連携して上手にまとめている。青垣地域では廃校利用などをしていて、企業を誘致する場所の課題に新たに増設するより廃校といったスポットを使って誘致が出来れば合理的だと思う。これからも統廃合の話があると思うので、そのあたりと連携してストック(廃校などの空き家)を使って上手く誘致が出来ればと思う。文言も活かすことができればと思う。それとコワーキングスペース開設への支援、観光業はワーケーションという言葉があったと思うが、私も青垣町で活動し、関西大学の学生たちと連携している。卒業生が就職先の企業でワーケーションに来てもらう事例がある企業に来てもらうというよりワーケーションのひとつの取り組みとして空き家などを使ってもらうように文言を足せば観光業ともリンクして良いのではないかと思う。若い企業向けの支援、新しく起業するのにハードルがある、仕事と移住のセットでの支援をやってほしいと思う。

事務局：気になっている事の指摘を頂きました。ありがとうございます。企業誘致は春日の歌道谷の土地を企業誘致にして出そうとしています。ただ、そこは丹波市の土地です。工業団地で空いている土地は全部、売れていて丹波市には無く、今後、企業誘致していくのに新たに工業団地を投資するのは金額的に現実的ではない。今の居抜き物件、企業が抜けた後の空いた物件を活用したり、地域の了解は必要になるが学校を使ったりも考えています。今後の企業誘致の在り方、やり方に少し触れた方が良いのではと思っています。なので、書き加えられるかどうかを検討します。

田辺会長：説明で数値目標を追加したという事ですが、現状と目標がある。現状は計画が半分済んだ段階で、という事ですしょうか。

事務局：現状は最新のデータを入れたと思っています。

田辺会長：最新のデータという事は、観光、商工業の計画が始まり、今の段階ですね。

出来れば計画の前の数字と、現在と、未来が分かれば説得力があると思います。他に、ご意見はありませんでしょうか。

委 員：81 頁の事業の目標数値、まごころワークサポートたんばの数値ですが、現状から目標が減っていますが、これは何か意図があるのですか。

事 務 局：目標は前回の計画を立てた時のもので、現在は利用が多くなりこの数値を超えている。上方修正するなどの検討が必要と思っています。

田辺会長：現状での目標ではなく前回のスタート時点の目標なのですか。

事 務 局：今すでに過去からの指標については前回の計画の数値をそのまま使っているのが主です。新たに目標を立てているのは来年度からの施策で、5年後くらいにはこの数値に近づきたいと思っています。

田辺会長：5年後の目標数値はどちらの方になるのですか。

事 務 局：新たに追加した仕事の家庭の両立支援補助件数（新規）赤い字の方です。今、指標を作ろうとしているので5年後以降これを目指したいです。

田辺会長：そうではなく、上の4,528人が現状でしょう。この数字は。

事 務 局：前回の目標数字です。

田辺会長：「目標」に当初の目標や前回の目標と説明を入れてもらい、現時点で新たに設定した目標と二段構えで書いてはどうでしょうか。

事 務 局：検討させて下さい。

委 員：実施施策の中に農業という文字が入ってきている。丹波には他にはない有機の学校があり新規で入っている農業したいという人も増えてきているところもあるので、36 頁の表の5、6、7は統合しますとあり、72 頁に総合ビジネスの今後の実施政策が語られているのかと思うのですが、農業者、新規就農者事業者に対する支援の方法も考えてほしい。

事 務 局：前回の農商工連携の推進で、六次産業化の現状を農業者目線で語ると現実的に一人でやるのは厳しいと思います。それも含めて農業者と商工業者の連携が後退するものではないのですが、書き方を整理したという事です。商工会で仕切ってもらっているビズステーションの農家の利用が多いです。効果も上げています。私が農業の担当課から商工業の担当課に来て、ますます農業と商工業の垣根が無くなってきたと感じているので敢えて入れずにこのような素案の形にしております。

委 員：独自化は難しいと思います。新規就農者が相談してくれるところや、新規就農者が丹波市へ移住するにあたって感じる難しさとかいろいろある中で、施策が何か明記されていたら嬉しい。

事 務 局：この部署は商工業を担当しています。農業については農林振興課という課があり丹波市農業基本計画という計画の中で支援をしているので、ここで

は敢えて控えめにしています。

田辺会長：観光商工業振興なので農業が前面に出ていないのも分かりますが、丹波市全体を考えると農業も大切です。移住なども含めて農業の新しい振興策ということならば市役所の中で農林ではなく総務課などで検討する場があっても良いかもしれないですね。農業や商工業に割り振るというよりも全体としての場所を考えてはどうかと思います。

事務局：移住を担当する課は本庁のふるさと定住促進課がございます。昨年、取り組み方針を設けて移住に特化して取り組んでいるところです。農業との連携も行っており丹波市としては充分に取り組んでいると考えます。

委員：76 頁、令和 4 年度に「丹波市ふるさと就職奨励金」制度を創設しました。市内企業に就職された新規学卒者を対象に 10 万円が支給されるという制度。これが本当に若い人材の確保につながるのか。若い方が帰ってくるのかなと思っている。

田辺会長：10 万円は 1 企業に対してですか。毎月ですか。

委員：就職した者、一人に 10 万円支給です。毎月ではありません。

委員：既存企業が安心して事業活動を展開できる環境づくり。私どもにとっては人口を増やして欲しい。それが安心して既存企業が安心して事業活動を展開できる環境だと思う。丹波で働くという事は丹波に住むという事。どこの企業にというより、まず丹波に住もう。それから、どこに働くところがあるのかになる。丹波に住むのが大前提であるのを押さえた上で、商工だけでなく各職が連携して住みたい丹波を作るという一文があっても良いかと思っている。

事務局：丹波市は決して 10 万円の支給で若い人が帰ってくるとは思っていない。これを一つのきっかけにして、個人に渡すのだが企業が人材確保に上手く使って欲しいと思っています。これ以外にも転入者の若者定住支援金もあるし、人材の集まりにくい福祉人材には別の手当てがあります。人が住まなければというところは 3 頁の計画の位置づけに「丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略」とありますが、これが地方創生について述べています。商工業だけでなくいろいろな施策を以って当たる計画を個別に持っているので、魅力的な街となるように取り組みます。

田辺会長：39 頁には観光や商工業だけではなく農業なども含めての働き方改革と、40 頁に女性の活躍と働き方がより幸せに繋がるという事ですが、丹波市役所は働きやすい職場ですか。あるいは女性が活躍していますか。

事務局：子どもを優先して休めたりしますので、働きやすく感じます。

田辺会長：働き方改革、女性活躍を打ち出すと中心になっている市役所が先頭を走っていないかならないです。楽しくなさそうに仕事をしている人間から就

職活動を促されても心に響きません。また、商売で最も売れるのは売り手自身が欲しいものであるのに、自身が買わない物を誰かが買わないかというビジネスが多いと感じます。その点、批判もあるが明石市は出来ているように感じます。子育て中の若い夫婦は満足しているし、高齢者への給付金も手厚いです。その他にも手厚い手当があると聞いています。丹波市の魅力を打ち出す原点になるので頑張って欲しいです。それと観光も含めて全体に思ったのが、丹波市の特色のひとつとして京都からも大阪からも神戸からも近く、播州にも行けます。極端に言えば鳥取からでも来れます。ニュージーランドのパーマストン・ノースに住んでいたことがあるのですが大学があるだけの個性のない町でしたが、コンフィデンスシティ(会議都市)と言われていて、いろんな場所から国道が集まっていて、どこからでも会議をするのに便利な町です。それもある種の観光でもあるわけです。集まる場所であると発信します。その為の会議場があり割安で使えるという方向を打ち出してもらうのはどうでしょうか。先日、アンカー神戸という施設から講演を頼まれました。異業種交流の場を阪急三宮駅が再建された中に作っています。丹波の場合は違った地方、違った世代が集まれるような何かを作ってもらえればどうかと感じました。予定の案件は以上です。最後に事務局から次回の懇話会の日程をお願いします。

7. 次回懇話会

事務局：第4回懇話会の議事録について修正などありましたら、事務局までよろしくお願いします。次回の懇話会開催日ですが春日住民センター大会議室で開催いたします。日程調整は後日させていただきますので、よろしくお願いします。

8. 閉会

田辺会長：それでは閉会いたします。次回もよろしくお願いします。